

ねん いつ か
2023年3月5日

し じゅんせつだい しゅじつ
四旬節第2主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

そうせい き たい あたら とち で む しゅ ことば
創世記は、アブラムに対して、新しい土地へ出向いていくようにとよびかける主の言葉、
すなわち、「生まれ故郷、父の家を離れて、私が示す地に行きなさい」と記しています。

う こぎょう ちち いえ す な あんしん ば あんじゅう ち
「生まれ故郷、父の家」とは、住み慣れた安心のできる場、いわば安住の地です。し
かし「私が示す地」とは、いったいどこなのか、詳しいことは全くアブラムには知ら
されていません。一体この先どうなるのだろうか、大きな不安があったことだと思
います。しかしアブラムは、「主の言葉に従って旅だった」と記されています。主の呼び
かけに信頼して、未知の旅路へと歩みだした決断は、神への信仰に基づいていました。

てがみ かみ よ おこな
パウロはテモテへの手紙で、神がわたしたちを呼ばれているのは、「わたしたちの行い
によるのではなく、ご自身の計画と恵みによる」のだと記しています。歩み始める旅路
の主演はわたしたちではなく、主ご自身であるのだから、主の計画と恵みに身をゆだね
よという呼びかけです。

きょうこう し とてきかんこく ふくいん よろこ で む
教皇フランシスコは、使徒的勧告「福音の喜び」において、「出向いていきましょう。
すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向いていきましょう」と呼びかけます。
わたしたちもアブラムのように、またパウロが述べるように、主の計画と恵みに身を委
ねて旅立たなくてはなりません。

み ゆだ かみ けいかく ふく
それではわたしたちが身を委ねるべき神の計画はどこにあるのか。その神の計画は、福
音書にあるように、御父が「私の愛する子、私の心に適うもの、これに聞け」と言わ
れた御子イエスの言葉と行いによって、わたしたちに明示されています。弟子たちの前
での御変容を通じて、神はイエスこそ神の子であり、その言葉と行いに神の栄光がある
ことを明示されました。

きょうかい いま みち あゆ せんしゅうまつ たいりくべつ かいさい
教会は今、シノドスの道を歩んでいます。先週末には、アジアの大陸別シノドスも開催

されたところです。連帯^{れんたい}の内^{うち}にともに歩み^{あゆ}続ける^{つづ}神^{かみ}の民^{たみ}は、主^{しゅ}の計画^{けいかく}と恵^{めぐ}みに身^みを委^{ゆだ}ねるために、闇^{やみ}雲^{くも}に歩^{ある}き続ける^{つづ}のではなく、聖^{せい}霊^{れい}の導^{みちび}きを常^{つね}に識^し別^{きべつ}しなくてはなりません。そのためにも、共^き同^{どう}体^{たい}での祈^{いの}りが必要^{ひつよう}です。互^{たが}いの声^{こえ}に耳^{みみ}を傾^{かたむ}け、共^{とも}に祈^{いの}り、ともに支^さえ合う姿^あ勢^{しせい}が大切^{たいせつ}です。わたしたちは神^{かみ}の民^{たみ}、その牧^{まき}場^ばの群^むれであります。牧^{ぼく}者^{しゃ}の声^{こえ}を聞^きき逃^{のが}すことのないように、互^{たが}いに助^{たす}け合^あいましょう。